

今回公募した愛称には 54 件の応募をいただきました。ありがとうございます。

おみたいむの名づけ親である櫻井さんが議会だよりを読むようになったのは、子育てで小美玉市に移り住んだ頃。最初は少し堅いな、という印象だったとか。愛称には「タイムリーで新鮮な話題が届けられ、もって市民が議会を身近に感じられるように」という思いを込めてくれたそうです。

新愛称

おみたいむに決定！

おみたいむという愛称には
「もつと議会を身近に

感じられるように」
という思いを込めました



櫻井有加さん(3歳児の母・下玉里)

民 ひとつに

おみ
たいむ

表紙のこのマーク、なんだと思いますか？ ひょうたん？ いえいえ、実はこれ、砂時計をデザイン化したもの。横にすると∞(無限大)にもなります。ずっと住み続けたい小美玉市へ。「市民と皆さんと手を携えて一歩ずつ進んでいきたい」という議会の思いを込めました。

市の誕生とともに約19年間親しまれてきた議会だより。議会では「もつと手に取ってもらいたい」と全面リニューアル。
「おみたいむ」の愛称で生まれ変わりました。議会と市民の思いがこもった議会だよりへ…
どうぞご期待ください。

私たち市議会は
市民の皆さんとともに歩みます



長い人生を振り返ると、やはり議会や議員さんには市民に寄り添う存在であってほしいです。福祉を充実させ、若者の郷土愛を育み、空港のまわりも賑わうことを願います。

飯島チヨ子さん（93歳 元市内教員・倉敷）



寄り添う
存在に

前向きな
市民が
増えて

インパクトがあり、若者から大人まで読んでもらえる。そしてまちづくりに前向きな市民が増えていく……そんな議会だよりを期待しています！

島田 薫さん（高校1年生・竹原）



「議員さん一人一人の人の人柄や活動の思いが伝われば、もっと楽しく読めるはず」と笑顔で話してくれました。

議会と市 思いを



成果
残して！

小美玉市のために成果を残していただきたい。今後も議員さんの活動に期待しています！

中島幸子さん（小6小3子育て中・栗又四ヶ）

知ってほしい・
伝えたい！
リニューアル
実現までの

692 日の軌跡

創刊号
平成18年4月



2023.12

「いざ！ 体制づくり 見直しへ！」
広報特別委員会を設置し、検討を開始

2024.4

「テクニックだけじゃない！
大切なのは議会の思いと情熱」
コンクール日本一の埼玉県寄居町で学ぶ

2024.7

「せっかくやるならトコトン！
全面リニューアルに」
専門家を招いての研修会を開催。課題と具体的なアドバイスを受ける

2025.1

「市民（読者）は何を求めている？」
ネットによるモニターアンケートを実施し、読み手のニーズを調査

2025.7

「紙面デザイン、コツはこれだ！」
福岡県大刀洗町・添田町にて視察研修。デザインや編集の手法などを学ぶ

2025.8

「市民とつくり、愛称を募ろう」
愛称の公募をはじめ、実際の編集作業を開始

2025.10

生まれ変わった議会だより発行

01 みんなでつくる 市民参加型へ



編集方針も
つくりました
議会HPで
公開中！

議会の情報を一方的に発信するだけでなく、市民皆さんの声を取り上げ、共に歩む広報紙にしていきたいです。市民の皆さんへのインタビュー企画も始めました。

02 写真で見せる・伝える

パッと見て読みたいと思っていただけるよう、文章はできるだけ簡潔明瞭に短く。写真やイラストのチカラを活かします。

03 読みやすさを追求します

読みやすく、読み間違えにくい「UD（ユニバーサルデザイン）フォント」を採用。読者にやさしい、読みやすい紙面づくりを心がけていきます。



よりよい紙面を目指して広報委員会で協議